



第 2 1 8 号

連携室だより


 公益財団法人
 北海道医療団

帯広第一病院


帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

忠類診療所の指定管理者による運営開始について

専務理事・法人事務局長 番場 規真

当法人は、本年4月より忠類診療所の指定管理者として運営にあたることになりました。

診療所の所長には、うしおだ健康クリニック院長の潮田英明先生を当法人にお迎えし、運営をお願いしました。

なお、うしおだ健康クリニックにつきましては、本年2月末をもって閉院いたしました。

忠類診療所は、これまで塩塚実院長により地域の身近な医療機関として、子供さんからお年寄りまで、また急性疾患から慢性疾患まで様々な病気に対応しながら、地域の保健予防活動や在宅医療にも取り組んでこられました。

当法人が運営を引き継ぐにあたり、これまで塩塚院長が取り組まれた医療活動を継承しつつ、当法人の理念である「患者・住民・地域から頼りにされる法人」を実現するため、安定した医療の提供に努めてまいります。

当法人は公益財団法人として、運営する全ての事業に公益性があると北海道知事より認可を受けております。この度の忠類診療所の指定管理者による運営につきましても、これまで取り組んできました僻地への診療支援の一環として、幕別町と歩調を合わせながら、その運営に取り組んでまいります。

今号の内容

- ・ 忠類診療所の指定管理者による運営開始について 専務理事・法人事務局長 番場 規真 (1)
- ・ 退職医師よりご挨拶 (2) (3) (4)
- ・ 統括看護部長より退職のご挨拶 統括看護部長 横尾 洋子
- 音更病院施設紹介 事務長 西川 和彦 (5)
- ・ ミニドック開催のご案内 健康管理センター 師長 柴田 加奈江 (6)

退職医師よりご挨拶

～3月末をもって退職となる医師よりご挨拶いたします～



理事長

小林 光樹

陽春のころとなってまいりまして、皆さまご健勝にお過ごしのことと思います。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して1年近くたとうとしています。3月は去る人を見送り、4月には新しい人を迎えるこの時期、いろいろと感情がゆれ動くのが例年のことでありましたが、今回は自分が長年（2015年から9年間になります）にわたり籍を置いてきた北海道医療団を退職する運びとなりました。この場を借りまして、みなさまに感謝の言葉を申し上げます。理事長ということで、院内での医療業務にとどまらず、院外で医師会をはじめとして様々な機会で、たくさんの方々を知り合うことができ、また親しくさせていただいたことは、私の宝だと思っております。飲んでほじけ過ぎたことも多々ありますが、時効として笑ってお許しいただければ幸いです。

歴史をひも解いてみますと、北海道医療団の始まりは志田医院の開業にまでさかのぼることができます。志田医院が開設されたのは、昭和3年（1928年）ですから、この年から数えると今年は96年目にあたり、あと4年で100周年を迎えます。その間、昭和50年（1975年）に現在の名称である帯広第一病院になり、平成9年（1997年）には西4条南15丁目の現在地に新築移転しました。また、帯広第一病院に加えて帯広西病院、音更病院、介護老人保健施設とかち、訪問看護ステーションたなごころ、ケアマネジメントセンターほほえみ・ヘルパーステーションほほえみ、音更町地域包括支援センターほほえみを開設しました。また、平成30年（2018年）にはながい内科医院を法人にお迎えし、今年4月からは忠類診療所の指定管理者を務めることとなります。長い歩みの中では、大きな危機を迎えることもありましたし、名称や形態も変わりましたが、よくぞここまで続けてきたものだなあと感じます。そして、自分がその歴史の中で微小ながらも貢献できたことに感慨をおぼえております。

このように見てきますと、私たちの法人は立ち止まることなく、常に改革革新を重ねてきたことが分かります。この改革を恐れない気持ちでいることが、私たち職員には大事なことだと思いますし、職員みんなに流れる血だと思っています。私たちは、北海道医療団の理念として「患者・住民・地域から頼りにされる法人」を掲げております。患者さまには癒しを提供し、住める方には健康を約束し、また医療・介護を通じて地域の病院や施設と手を結んで活動することを目指すということです。そのためには、私たち法人の職員一人一人がその精神を言葉や態度で現わす必要があると思います、そのことを機会あるごとに伝えてきました。毎年の新入職員への挨拶では、挨拶と笑顔を心掛けてくださいと話をしていました。自分でも実践するよう心掛けました。そのため、街を歩いていて見知らぬ人に挨拶をしてしまったこともたびたびです。

人生百年という声を聴くようになって久しくなります。ですから、医療や介護の仕事が世の中にますます必要とされる存在になっていくだろうと考えています。京セラの創業者稲盛和夫は、様々な決断を迫られる場面で「人間として正しいこと」を基準に判断したと言っています。命や健康が重要性を持つ増す時代にあって、この精神を大事にすることが今後も北海道医療団にとって大事なことだと思います。理念を実現するために、努力を継続してまいりますので、私たちの北海道医療団をどうぞよろしくご支援いただきますよう、お願いいたします。最後になりますが、お世話になりました皆様に改めましてお礼を申し上げますとともに、皆さまのご多幸とご健勝を祈念いたします。



総合診療科長
副院長

健康管理センター長

高山 嘉宏

この度、令和6年3月末にて退職する事となりました。思い起こせば4年前新型コロナウイルスの影響もなかった令和元年夏に帯広第一病院への就職を決めさせていただきました。その後令和元年12月に中国武漢で新型コロナウイルスが発生いたしました。令和2年4月に入職させて頂き、総合診療科としての外来、糖尿病の専門外来、糖尿病教育入院等を中心に開始いたしました。

しかし令和2年1月15日、日本初の陽性患者さんがでて以来、新型コロナウイルスに対する対応が続いた4年間となりました。どこの病院も同じ御苦労されたことと思いますが、新型コロナウイルス対応に職員一丸となり暗中模索しながら、私も微力を尽くさせていただきました。もちろん一般臨床も継続しなければならず、障害者病棟や健康管理センターも担当させて頂き、ある意味人生で最も充実した医師生活を過ごさせて頂きました。今回本州に戻る事となり、主に一型糖尿病の患者様や地域の専門の先生方にはご迷惑をかけますが紹介させて頂きますのでよろしくお願い申し上げます。最後に公益財団法人北海道医療団のすべての方々にお世話になり感謝の念でいっぱいですが、益々のご繁栄を祈念いたしまして退職の挨拶とさせていただきます。



総合診療科
副部長

救急センター長

奥田 拓史

十勝管内の医療従事者の皆様、平素よりお世話になっております。この度、令和6年3月末をもって、帯広第一病院を退職することとなりました。

令和2年4月に帯広に赴任し、「断らない救急」を目標に救急外来を中心とした臨床に従事し、実習や講義を通じて救急隊と良好な関係も築けました。お陰様で、救急車搬送台数も徐々に増え、微力ながら地域医療に貢献はできたのではないかと考えております。

「金を残すは下、仕事を残すは中、人を残すは上」後藤新平の言葉です。救急での研修医教育を中心に頑張ってきたつもりです。一緒に仕事をした研修医は立派に育ち、私一人の力ではありませんが、「人を残す」ことはできたと自負しております。

4月からは、日本体育大学体育学部健康学科 スポーツ医学（内科）教授を拝命しました。大変光栄に思うと同時に、身が引き締まる思いです。研究・教育がメインとなり、これまでとは全く勝手が違うため、期待と不安でいっぱいですが、新たな挑戦をします。

4年間の帯広生活では、北海道の雄大な自然を楽しみ、美味しい物も堪能でき、本当に楽しかったです。また、多くの方々とお出会えたことが、一生の財産です。ありがとうございました。



総合診療科

齋藤 孝祐

平成31年に帯広第一病院で勤務を始め、令和6年3月をもって退職することになりました。

令和6年4月からは、札幌市に拠点を移し、医師として幅広い活動を目指しています。内科の勤務医として、生活習慣病を中心とした外来を行うほか、自由診療を基盤にダイエットや肥満外来を立ち上げ、予防医療に携わる予定です。また、パーソナルドクターやトラベルドクターとして、一人ひとりの健康や終末期患者のサポートに尽力し、家族の思い出を築くお手伝いをしたいと考えています。

自らがやりたいことを通じて社会に貢献したいとの思いから、これらの計画を実行していく覚悟です。

十勝の医療従事者の皆様、そして帯広第一病院のスタッフの方々には大変お世話になりました。医師としてこれからも様々な活動に取り組んでいく予定ですので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。5年間、本当にありがとうございました！



外科
主任医長

宮崎 健人

十勝管内の医療従事者の皆様、平素より大変お世話になっております。

私は当院に令和4年10月に赴任し、この度、令和6年3月をもって退職する運びとなりました。1年半という短い期間でしたが、色々な手術、症例を経験させていただき、自分にとってとても有意義な時間を過ごさせていただきました。至らないことの多い自分でしたが、多くの病院のスタッフの方々に支えていただき、とても働きやすい環境で過ごさせていただきました。4月からはボストンのマサチューセッツ総合病院に研究留学することになりました。手術からはしばらく離れて研究生生活となり、とても名残惜しいですが、ここで過ごした時間と同様に有意義な時間にできるようにほどほどにがんばりたいとおもいます。短い期間でしたが、これまで本当にありがとうございました。



消化器内科
主任医長

消化器内視鏡
副センター長

外田 修裕

平素より大変お世話になっております。帯広第一病院消化器内科外田と申します。私事で恐縮ですが、令和6年3月をもって帯広第一病院を退職、異動することになりました。

令和4年4月赴任後より帯広第一病院スタッフの方々はもちろん、地域の先生方はじめ皆様に支えていただきながらの毎日でしたが、おかげさまで帯広の、特に消化器医療のほんの一端でも担うことができたのではないかと考えております。赴任した当初はコロナウイルス感染症により医療がひっ迫し、患者様はもちろん医療従事者も非常に気を張った毎日を過ごし、大変な日々だったと記憶しておりますが現在はコロナ禍以前の生活、医療が徐々に戻りつつあり、当院における内視鏡件数、内視鏡治療件数も昨年より増加しております。後任で4月より赴任される先生も、私と同様上部消化管領域を専門としておりますゆえ、引き続き消化器領域の疾患がございましたら帯広第一病院へご紹介いただけますと幸甚に存じます。最後に皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、退職の挨拶とさせていただきます。2年間お世話になりました。



消化器内科
主任医長

池田 明洋

十勝の医療従事者のみなさま、平素より大変お世話になっております。帯広第一病院には令和4年より勤務させて頂き、その間消化器内科医として研鑽を積ませて頂き、多くの貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございます。スタッフの皆様には沢山支えて頂き、上級医の先生方にはいつも多大なご迷惑をお掛けしました。申し訳ございません。この2年間幾度も叱咤激励を頂き、遅々たる成長を辛抱強く見守って下さった事を感謝しております。

私は4月より足寄町国民健康保険病院にお世話になります。医学生時代に足寄町より就学資金を頂いており、そのご縁での勤務です。

消化器内科の領域は広く深く、学びきれなかったことやお役に立てなかったことも多々ありますが、これを一区切りとして、今後は一般内科医として幅広い領域に対応する医師として、ご恩をお返しできるよう勤めて参ります。2年間本当にありがとうございました。



統括看護部長より退職のご挨拶

統括看護部長 横尾 洋子



地域の先生方におかれましては、平素より大変お世話になっております。

私事で大変恐縮ですが、この度、令和6年3月末日をもちまして、退職させていただくことになりました。

地域の医療機関の先生方には平成14年8月、帯広第一病院に地域医療連携室を開設、連携室では7年間お世話になりました。至らぬ点多々あったかと思いますが、訪問の際には温かい叱咤激励のお言葉をいただき感謝しております。

帯広第一病院との縁…43年前、看護学生だった私は、帯広第一病院の脳神経外科へ入院した経験を通し、脳神経外科の分野に興味を持ち、更に知識と経験を積みたいと志願し入職しました。学び途中での入院は、その後の看護人生の道のりに、影響した貴重な経験だったと思っています。

公益財団法人北海道医療団帯広第一病院在職中は、多くの部署の経験と学びの機会をいただき成長させていただいたことに感謝しており、退職後はセカンドライフを楽しみたいと思います。

地域の医療機関の皆様には大変お世話になりありがとうございました。今後も、公益財団法人北海道医療団を宜しくお願い致します。

音更病院施設紹介 事務長 西川 和彦

療養病床として108床であり、54床ずつ2病棟あります。寝たきりで経管栄養やCVポートで輸液管理をしている方が多いです。看護師、准看護師、介護福祉士、ケアワーカーが在籍しており、子育て中からキャリアの高い職員まで幅広いため、お互いを思いやり働きやすい環境です。主に力を入れていることは、下記のとおりです。

①清潔に関すること：介護福祉士やケアワーカーが主体となってケアしており、お顔や口腔内は本当に綺麗で臭いがありません。

②褥瘡ケア：褥瘡を持って入院されても、治癒することが多いです。

③終末を迎えられる患者家族との関わり：ご本人が大切にされていたことは何かを考え、カンファレンス以外でも自然に職員同士の会話に「これを大切にしていたと聞いたからこうしよう…」とあり、プラン化して実施されていきます。コロナ禍で面会制限されているからこそ、小さな気づきを家族に伝えたり最後の場面に会えるように早めに声をかけたりと、当たり前ですが実行しています。プライベートも大切にしつつ、ケアにもこだわりを持ち、やりがいのある職場です。

薬局：院内薬局として外来患者様へきめ細やかな対応と処方待ち時間短縮をめざしております。ジェネリック医薬品も積極的に取り入れております。

放射線科：知識・技術ともに熟練した常勤技師が撮影しています。検査結果はわかりやすくまとめ、医師の診断のサポートをしています。外来、健診、入院患者の撮影のほか、併設施設の入所者の撮影も柔軟に対応します。

臨床検査科：常勤の臨床検査技師が、外来・健診・入院と幅広く検査しています。

令和4年度に新型コロナウイルスPCR機器を導入し、発熱外来をスタートしました。まだ、コロナ感染が続いている中、できる限りの対応に努めています。

リハビリテーション科：入院患者様一人ひとりの状態に合わせたリハビリテーションを提供し、長期臥床による身体機能低下を防ぎADL（日常生活動作）の維持に努めております。

栄養科：管理栄養士による栄養相談、栄養指導を行っております。地域住民の皆様の健康維持のための講話などもお受けしております。

期間限定
4月・5月

ミニドック開催のご案内

健康管理センター 師長 柴田 加奈江



毎年恒例の期間限定ミニドックを今年も開催いたします。期間は4月1日～5月31日までの2か月間です。このミニドックは平成15年から始まり、これまでに受診いただいた方は2,798名になります。毎年たくさんの方がリピーターとして受診されています。健康な身体を維持するには健康な時から気にかけていくことが大切です。

ぜひ、この機会にご自身の健康チェックをされてみてはいかがでしょうか。スタッフ一同心よりお待ちしております。

料金 **22,000円** (税込)

実施期間

令和6年4月1日～5月31日 (平日 月曜日～金曜日)

※毎週金曜日はレディースデイ (女性専用日) です。

検査内容

診察・検尿・検便・採血・血圧・身体測定・視力・体脂肪率・心電図・胸部X線・腹部超音波・胃バリウム・医師の結果説明・日常生活指導

オプション検査 (税込)	腫瘍マーカー	5,500円	*乳がん検診	
	胃カメラ	2,200円	マンモグラフィー《1方向》	3,300円
	動脈硬化	2,200円	《2方向》	5,500円
	骨密度	2,200円	超音波検査	3,850円
	内臓脂肪測定	2,200円	*子宮がん検診	6,600円
	ヘリコバクターピロリ抗体	1,320円		

※検査終了後は、ドック専用のお食事が出ます。

※大腸ドック併用 (ミニドック+別途22,000円) 同時に大腸内視鏡検査は出来ません。あらためてご来院いただきます。

申込受付 (予約制)

ホームページ、窓口、お電話にてお申し込みください！

公益財団法人 北海道医療団 帯広第一病院

電話：(0155) 25-3121

担当：健康推進室

ホームページURL：<https://www.zhi.or.jp/d/>



※新型コロナウイルスの感染状況によっては検査休止、延期となる場合がございます。ご了承ください。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室
〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3
TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)
FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

